

**令和6年 上富良野町議会第1回定例会  
一般質問 質問事項一覧**

届出順	氏名	質問事項
1	3番 湯川 千悦子	1 町民の防災対策への対応について 2 夏のイベントのあり方について
2	1番 佐藤 大輔	1 ラベンダーフェスタ及びライトアップイベントについて
3	10番 井村 悦丈	1 高齢ドライバーの事故防止について 2 帯状疱疹のワクチン接種の補助について
4	5番 金子 益三	1 ジオパークを活かした十勝岳観光の取り組みについて 2 上富良野町役場機構改革の進捗について 3 旅費規程について
5	6番 林 敬永	1 上富良野町第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画書の策定について 2 第3次上富良野町商工業振興計画の策定について
6	12番 小林 啓太	1 観光振興について 2 定住移住政策について 3 観光と定住移住に係る事業展開について
7	4番 米澤 義英	1 防災対策について 2 農業行政について 3 人口減少対策について 4 パートナーシップ制度について 5 町立病院について
8	9番 島田 政志	1 町営住宅について 2 旧教員住宅について
9	2番 荒生 博一	1 上富良野町「ゼロカーボンシティ」宣言について 2 防災対策について
10	7番 茶谷 朋弘	1 上富良野町における受動喫煙対策について 2 町のホームページとSNSの運用について

## 一般質問通告書(令和6年3月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p><b>1</b> <b>3番 湯川 千悦子</b> 1 町民の防災対策への対応について (町 長)</p>	<p>わが町上富良野町も活火山十勝岳のふもとにあり、大正15年の大噴火では144名の尊い命が失われたと共に、肥沃な大地も一瞬で泥流に飲み込まれ不毛の大地へと変わった歴史がある。30年から40年周期で活動が活発になる十勝岳との共存に加えて、近年は異常気象による大雨などでの水害や土砂災害、ブラックアウトによる電源の喪失など自然災害から命を守る大切さを全ての町民と共有することが大切と考える。</p> <p>わが町では、他の自治体と比べると町の防災対策は相当充実しているところは評価する。特に陸上自衛隊上富良野駐屯地との協働は地域住民にとって大変心強いものがあり、町の防災担当職員のレベルも非常に高い水準と受け止めている。防災用の備蓄品についても吟味を重ねて発災から支援物資が届くまでの命を守る準備もされているものと考え。町民の防災意識の裾野を広げることが、さらに求められると考え、次の点について伺う。</p> <p>(1) 十勝岳防災訓練は毎年2月に行われ、町長以下課長などがそれぞれの役割を果たして訓練されているが、一般職員も緊急時に対応出来るための訓練を行い有事に備えることが肝要と考えるがいかがか。</p> <p>(2) 指定避難所となっている、社会教育総合センター体育館には、台所を兼ねた厨房となる施設が設置されていない。長期にわたって避難を行う場合に水回りが無いことは避難者の不便になると考えるが、対応はどうか。</p> <p>(3) 町は、他の自治体に先んじてそれぞれの住民会に防災士養成に補助金を出して配置した。この間世代交代も行われているが、近年は新型コロナの影響により住民会でも各種制限され防災訓練等も行われていない状況にある。今後とも住民の皆様の防災意識高揚に向け、どのような方策をとるか伺う。</p> <p>(4) 避難生活が長期化した場合、過去の震災において年齢問わず性的被害が起き、泣き寝入りせざるを得ない状況になっていたり、また、金品の強奪などが行われる実態があると聞き及んでいるが、その対応は考えているか。</p>
<p><b>2</b> 夏のイベントのあり方について (町 長)</p>	<p>ホップ祭り、ラベンダー祭り、花と炎の四季彩祭りへと変遷をしてきた夏を代表するわが町のイベントも、現在は参画団体の様々な事情により形を変えてきた。加えて2020年以降は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言などで行動制限が起これ、イベントの中止や来客なしのイベントなどに变化して、わが町のイベントもラベンダー畑をライトアップすることで観光客に喜んでいただくイベントとなっている。昨年5月か</p>

	<p>ら新型コロナも2類から5類へと移行し行動制限も大きく緩和され、ここ富良野地域にも観光の賑わいや地元の皆さんの活気も徐々に戻りつつある。そこで、イベントのあり方について伺う。</p> <p>(1) 現在のライトアップによるラベンダー観光は大変ビジュアルとしては美しく、花火なども行い観光客を呼ぶには一定程度の効果がみられるが、一方で費用対効果について町中への入り込みや消費などはどのように分析して対応をしているのか。</p> <p>(2) 過去のラベンダー祭りや花と炎の四季彩祭りでは町民の皆さんが参加できるイベントとして文化連盟からの参加や、着ぐるみによる子供向けキャラクターによる舞台、自衛隊のミニコンサートなども行われ地元住民の憩いの場でもあったのだが、現在はそのようなイベントは行われていないが、今後の対応はどのように考えているか。</p> <p>(3) コロナ禍で地元の飲食店も大変疲弊している状況は十分に承知しているが、商工会、観光協会、JAを中心に再びお祭り会場での町内外へ上富良野町の食による特産品をPR販売する場の提供支援は行わないのか。</p>
<p><b>2</b> <b>1番 佐藤 大輔</b> 1 ラベンダーフェスタ及びライトアップイベントについて (町 長)</p>	<p>ラベンダーフェスタは令和2年にコロナ禍の暫定的なイベントとして開催されたが、以降、その反響の大きさから毎年開催されてきた。知名度の高まりに開催期間の延長も相まって、去年は延べ4万人の方が会場となる日の出公園を訪れたと聞いている。</p> <p>また、我が町では近年、コロナ禍で大々的な告知こそ控えたが、桜堤ライトアップやクリスマスライトアップなどのイベントが単発で実施され、その幻想的な空間が多くの人を魅了した。</p> <p>そこで以下4点につき町長に伺う。</p> <p>(1) ラベンダーフェスタは今後、町の一大イベントとして継続していくのか。また、これまでの経験から、ラベンダーフェスタは町にどのような効果をもたらしていると考えているか。</p> <p>(2) ラベンダーフェスタ実行委員会の体制は現状のままか。イベントの担い手について今後の見解を伺う。</p> <p>(3) イベント期間中、常時ではないが会場付近の道路が混雑している。夜間のイベントという観点からも、来場者と歩行者の安全確保、さらには近隣住民の理解を得るために、歩道や路側帯の設置などの整備が急務と考えるが見解を伺う。</p> <p>(4) これまでレンタルしていたライトアップの機材を購入し、ラベンダーフェスタのみならず、四季折々の上富良野をライトアップで彩る新たなツーリズムを展開する考えはないか。</p>

<p><b>3</b></p> <p><b>10番 井村 悦文</b></p> <p>1 高齢ドライバーの事故防止について (町 長)</p>	<p>年々増加傾向にある高齢ドライバーによる四輪車のブレーキ・アクセルの踏み間違いによる急発進事故が懸念されている。</p> <p>年齢別に事故割合をみると、65歳以上の高齢ドライバーのうち、特に75歳以上の高齢ドライバーでの割合が高く、その傾向は10年前と変わらず、加齢の影響が運転能力の低下をもたらしていると考えられ、高齢ドライバーに特徴的な事故形態の一つと言える。</p> <p>運転免許証を保有する高齢者は、この10年間で約2倍に増え、今後も増加することが予想されている。</p> <p>自主返納を考える方もおられる一方、家族から促されながらも、日常の利便性を考え買い物や通院等、日常生活に欠かせなく自動車免許を返納されない方も多いと考える。</p> <p>最近では新車には対歩行者衝突被害軽減ブレーキ装置が標準搭載された車種も多くなってきた。国のサポカー補助金も2021年11月で終了し、今後再開されるかどうかについても不明であることから、新車・中古車購入時にディーラーにて後付けペダル踏み間違い急発進抑制装置をオプションで装着を勧めても余計な出費を嫌う傾向にあるとも言われている。</p> <p>現在所有する車種、年式にもよるが、後付けのペダル踏み間違い急発進抑制装置が取付け可能である。</p> <p>このような事故を100%防げるわけではないが、衝突防止または被害軽減、歩行者の安全を守り、高齢者が安全に運転を継続していただけるよう、ペダル踏み間違い急発進抑制装置の購入及び設置費の補助をわが町でも行ってはどうか。</p>
<p>2 带状疱疹のワクチン接種の補助について (町 長)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、10か月が経過、新型コロナワクチン特例接種も令和6年3月まで無料で受けられ、これまでの日常が戻りつつある中、最近ではメディアでもよく带状疱疹という言葉をよく聞くようになっている。</p> <p>ご承知のとおり、带状疱疹は、50歳代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が発症すると言われており、多くが子供の時に感染する水疱そうが、治った後も体内神経節に潜伏しているウイルスが加齢や疲労・ストレスなどで免疫力が低下することによって再び活性化し発症しやすくなり、症状は、体の左右どちらかの神経に沿って痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが带状に表れる皮膚疾患であり、多くの場合は皮膚症状が治ると痛みも消えるが、带状疱疹が現れる部位によっては、角膜炎顔面神経麻痺、難聴などの合併症を引き起こすことがあると言われて</p> <p>いる。</p> <p>带状疱疹ワクチンには、生ワクチンと不活化ワクチンがあり効果や接種希望者の予診などによって違いがあるが、接種費用は、生ワクチン</p>

	<p>6,600円から8,000円、予防効果の高い不活化ワクチンは2回接種する必要があることから総額40,000円と自己負担額はかなり高額なワクチンである。</p> <p>町民の皆さんからは、带状疱疹ワクチン接種にかかる費用の助成をとの声も多く聞く。</p> <p>健康で健やかな生活を過ごすことは、年齢を重ねてから特に大切なことだと考える。</p> <p>そこで3点伺う。</p> <p>(1) 带状疱疹ワクチンの効果をどのように考えているか。</p> <p>(2) 带状疱疹ワクチンの周知と接種推進はなされているか。</p> <p>(3) 带状疱疹ワクチンの接種助成についての考えは。</p>
<p><b>4</b></p> <p><b>5番 金子 益三</b></p> <p>1 ジオパークを活かした十勝岳観光の取り組みについて</p> <p>(町 長)</p>	<p>上富良野町のシンボルでもある大雪山系十勝岳連峰の魅力は、いまさら言うまでもなく国内外に大変人気がある景勝地である。夏山登山、秋の紅葉、近年は冬のバックカントリースキーなどに加えて、北海道最高峰にある十勝岳温泉、全国のサウナを楽しむサウナーと呼ばれる方々にとっての聖地でもある白銀荘さらには、十勝岳火山活動によって生まれた国内でも珍しい緩やかな丘陵と農作物が織りなす壮大な景色とその肥沃な大地から生まれる安心安全でおいしい農畜産物など、まさに上富良野町と十勝岳とは大変大きく強いつながりをもっている。</p> <p>現在美瑛町と進めて2022年1月に認定を受けた十勝岳ジオパークも両町で様々な取り組みをしているが、我が町の拠点施設や他の取り組みもまだまだ町民周知などにおいて広がりも弱く、町全体を取り込んだ動きが必要と考え次の点について伺う。</p> <p>(1) 再来年に開催が予定される日本ジオパーク全国大会が北海道で行われる予定と伺ったが、開催地として手上げの準備やスケジュール等についての考えはあるか。</p> <p>(2) 現在の拠点施設は上富良野町郷土館1階に改修が行われて設置されているが、他の拠点施設から見ると著しく規模や展示物に見劣りがあるのが否めないが、今後の予算措置や展示等の考え方はどのように行っていくのか。</p> <p>(3) 十勝岳ジオパークはもちろん、観光のみならず文化歴史教育や郷土愛育成など様々な活用が見込まれるところであるが、最も基礎となる十勝岳温泉エリアの振興が必要と考えるが、ネイチャーセンターやガイド小屋などの設置または、民間との協働による観光振興への支援はどのように考えるか。</p> <p>(4) 町民をさらに取り込み上富良野町全体として、十勝岳ジオパークへの関心や盛り上がるために必要な手段はどのように図っていくのか。</p>

<p>2 上富良野町役場機構改革の進捗について (町 長)</p>	<p>2021 年 9 月に現在のの上富良野町役場のスタッフ制について質問をさせていただきます。</p> <p>当時町長の御答弁は、現在のスタッフ制に基づき検証を行い、運用をさらに改良すべく変革させたいとの意向があった。また職員からアンケート等を用いて現在のスタッフ制の問題点を洗い出していくとのことであったが、その後の進捗について伺う。併せて職員の士気高揚、やる気を高める方策はどのように考えるか。</p> <p>(1) 検証の結果についてどのような分析を行ったのか。</p> <p>(2) 現在のスタッフ制で町長が感じていた、メリットとデメリットに対する統括はどのように行ったのか。</p> <p>(3) 現状のような行政課題等に対応するための職員は現在の定数で良いのかなどの検証は行わないのか。</p>
<p>3 旅費規程について</p>	<p>現在の職員の旅費規程は世の中の物価上昇と乖離している状況にあるが、条例改正などを行い現状と適合するような旅費規程が必要と考えるが、改訂しないのか。</p>
<p><b>5</b> <b>6 番 林 敬 永</b> 1 上富良野町第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について (町 長)</p>	<p>町においては、令和 3 年 3 月に策定された「上富良野町第 8 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、今日まで保健福祉サービスの充実や介護保険事業の整備等を計画的に取り組んでこられた。今回令和 5 年度が第 8 期事業計画の最終年度に当たることから、パブリックコメントを経て令和 6 年度以降の事業計画となる第 9 期事業計画を策定されているが、この事業計画の策定にあたり、町長の思いを伺う。</p> <p>(1) 第 8 期事業計画における計画の進捗状況、また進捗状況に対する評価・課題をどのように捉えているのか伺う。</p> <p>(2) 第 8 期事業計画の課題を第 9 期事業計画において、どのように解決する内容とされているのか伺う。</p> <p>(3) 第 9 期事業計画において、特に重点的な内容としている施策について伺う。</p> <p>(4) 高齢者を取り巻く現状の中で、当町の人口・世帯数の状況において、高齢世帯及び高齢独居世帯数の推移が全国及び北海道と比べると高い数値となっているとされているが、その原因を町長はどうお考えか。</p> <p>(5) 第 9 期事業計画施策の推進において、基本目標に安心できる住まいの確保の中で、介護保険施設等の整備について高齢者が安心して地域で住み続けられるよう高齢者数や利用状況、医療計画との整合性を見極めながら介護保険施設等の整備を計画的に進めるとあるが、今後 3 か年の計画の中でどのように進められるのか伺う。</p>

	<p>(6) 第9期事業計画施策の推進において、基本目標として介護人材の確保と生産性の向上に向けた取り組み強化として人材の確保を挙げている。</p> <p>そこで、現在令和7年に向け町立病院の大規模な建替工事が行われているが、町立病院における現状として医療、看護、介護職員数がどのような状況にあって、今後令和7年に向けてどのような職員体制としていくのか、増員が予定されているのであれば、その人材確保はどのように進めているのか伺う。</p> <p>(7) 第9期における介護保険料基準額（月額）の算定方法は、どのような考え方でどのように決定されたのか伺う。</p> <p>(8) 第9期事業計画による高齢者の保健福祉施策の推進のために令和6年度当初予算編成において、どのように予算に反映させているのか伺う。</p>
<p>2 第3次上富良野町商工業振興計画の策定について (町長)</p>	<p>商工業等の取り巻く環境が、少子高齢化や人口減少の著しい進展や経済活動の技術革新、情報化の飛躍的な進歩など社会情勢が大きく変動し、価値観や消費者ニーズの多様化により日々生活スタイルの変化も進んでいるとして、本町においては第1次計画を平成28年度から平成30年度の3か年、第2次計画を平成31年度から令和5年度の5か年を策定している。</p> <p>この度新たに策定される第3次計画について、町長の思いを伺う。</p> <p>(1) 第2次計画策定にあたっては、上富良野町商業振興計画策定委員会を設置し、委員各位から貴重な意見を頂き策定にご協力を頂いたとされているが、この度の第3次計画にあたっては、どのように策定されたか伺う。</p> <p>(2) 第2次計画における計画の進捗状況、また進捗状況に対する評価・課題を第3次計画にどのように反映され、具体的にどのような解決策を考えているのか伺う。</p> <p>(3) 第3次計画における上富良野町の商工業の状況について、経済センサスの統計調査を引用されているが、経済センサスは3年に一度の調査であり、この度の5か年の計画を策定されるのであれば、町独自に経済センサスと同内容の調査を実施し、第3次計画策定の基礎データとすべきではと考えるが、町長の考えを伺う。</p> <p>(4) 第3次計画策定にあたっては、第6次上富良野町総合計画（平成31年～令和10年度）の後期計画（令和6年～令和10年度）と連携を図り、商工業振興の方向性を示すものと記載されているが、後期計画に記載されている本町の基盤となる産業推進に関する計画の内容について伺う。</p> <p>(5) 第3次計画で、特に重点としている施策は何か伺う。</p> <p>(6) 第3次計画の基本方針に伴う施策の展開において、令和6年度予算</p>

	編成にどのように反映されようとしているのか伺う。
<p><b>6</b></p> <p><b>12番 小林 啓太</b></p> <p>1 観光振興について (町 長)</p>	<p>現在町では令和6年から令和10年を計画期間として第3次上富良野町観光振興計画が策定されている。ここ数年はコロナ禍の影響もあり観光産業自体が大きく縮小していたが、昨年の5類移行以降、本町の観光も賑わいを取り戻しているように見受けられる。そんな中、コロナ禍を経験した旅行者はプライベートな空間での宿泊を望むようになるなど、宿泊形態も多様化してきているように感じる。またここ数年で町内でも小規模の宿泊施設が新規に営業を開始している現状を見聞きすることが多くなった。そこで今こそ上富良野町が「通り過ぎる町」ではなく「滞在して満喫する町」へとバージョンアップを遂げるべきと考え、より効果的な計画の策定と、着実な事業の推進を望むところである。</p> <p>そこで町長に対し上富良野町の観光振興、またその計画に係る以下5点に関して伺う。</p> <p>(1) 計画に掲載されているデータに関し、宿泊数の数字は何件の宿泊施設によるデータの合計（入込調査で回答が得られている件数）で、その回答のあった施設の一日に宿泊可能な人数の合計はいくつか。</p> <p>(2) 現在上富良野で営業している宿泊が可能な施設は、合計で何件あり、一日の最大宿泊可能人数は何人か（上富良野には一日に最大で何人の観光客が宿泊できるのか）。</p> <p>(3) 現在営業している宿泊可能な施設のうち、観光協会に所属していない施設は何件になるのか。</p> <p>(4) 今後このような観光協会に所属していない宿泊事業者に対しては、町の観光振興上どのように対応していくべきだと考えているか。</p> <p>(5) 月別観光入込数のデータを見ると11月～4月の入込数が夏と比べると極端に低くなっているが、この期間の観光振興に関して計画上では具体策は触れられていないが、町長の所感を伺う。</p>
<p>2 定住移住政策について (町 長)</p>	<p>現在上富良野町では地域おこし協力隊などの制度も活用し、移住促進やふるさと納税に係る関係人口を増やしていくような情報発信を積極的に行ってきたものと理解している。そこで、現在町がサポートしているシーズステイ住宅についてと、新たな生活体験の機会提供について、以下4点を町長に伺う。</p> <p>(1) 現在町ではシーズステイ住宅として、民間のアパートを希望者に紹介しているが、以前の旧教員住宅などを活用したお試し暮らしから現在のスタイルになった経緯を伺う。</p> <p>(2) 現在行っているシーズステイ住宅の移住実績を伺う。</p>



	<p>(3) 今後も現状のままシーズンステイ住宅制度を運用していく考えか伺う。</p> <p>(4) 今後、移住定住政策において、新たな生活体験の提供を行っていく考えはあるか。</p>
<p>3 観光と定住移住に係る事業展開について (町長)</p>	<p>私が現在行っている民泊経営の経験から、上富良野のリピーターになってくれる方には、条件としては大きく2つあり、一つ目は初めて来たときから複数日滞在して観光やウィンタースポーツを楽しんでいること、二つ目は宿のオーナーなどを含む地元の人間たちとコミュニケーションの時間を多くもっていること。</p> <p>長く滞在していただいている宿泊者の方とは自然とコミュニケーションの機会が増えるので、結果として長ければ長いほどリピート率が高いと肌感覚では感じている。また以前中富良野にあるゲストハウスに約1年半下宿していた際に、他所の地域からきて富良野地域で夏や冬の季節労働に携わる方が、そのまま定住したり、その後このエリアに戻ってきて定住していく姿を見てきたが、その特徴はリピーターになる方ととても近いものがあった。</p> <p>ここ数年で多くの宿泊事業者が営業を開始しているが、今後上富良野町が観光振興を行っていく上では、宿泊可能な施設が増えていくことは望ましいことであると考え、また関係人口という観点からも、我が町で可能な限り長い時間を過ごしてもらうための方策が重要であると考えている。そしてまた現在数字上では入込みに苦戦している冬季においても、必要な策を講じるべきと考える。そこで以下3点に関して町長の所感を伺う。</p> <p>(1) 宿泊可能な施設を増やしていく上で、自宅や空き家、空き部屋を有効活用するための宿泊事業の免許取得や、農村部での農泊の施設整備を促進していくべきと考えるが町長の考えを伺う。</p> <p>(2) 冬場の集客に関して、現在上手くいっている事業者はインバウンドを含むスキー客を獲得している傾向が見て取れた。そこで冬場のインバウンド集客、スキー集客を町全体で底上げするために何か方策を講ずるべきと考えるが、町長の考えを伺う。</p> <p>(3) 現状ではまだ多くの宿泊施設事業者が冬場の集客に苦戦している状況がある。そこで現在町が仲介しているシーズンステイ住宅に関して、宿泊事業者の空室を活用することで、事業者と利用者の双方にメリットがあり、また利用者との関係構築や定住移住に繋がる取り組みとしても大きく期待が持てる则认为るが、町長の考えを伺う。</p>

<p><b>7</b> <b>4番 米澤 義英</b> 1 防災対策について (町 長)</p>	<p>能登半島地震では、家屋の倒壊、交通路の遮断、水や食料、医療など生活に必要な多くのものに被害が及んでいる状況にある。町においても災害に対応した計画があるが、もう一度災害備蓄品や避難計画などの再点検が必要と考えるが、また町長は能登半島地震の事態をどのように受け止め町の防災計画に反映されようとしているのか伺う。</p>
<p>2 農業行政について (町 長)</p>	<p>国の農業政策が目まぐるしく変わる中で農業者はほんろうされている。今では農家の戸数は、平成12年度494戸から令和2年度では246戸に減少し、農業後継者も減少し町の経済にも悪影響を及ぼしていると考えますが、町の農業を守るためにも、後継者確保のための支援策が必要と考えるが、具体的な対策について伺う。</p>
<p>3 人口減少対策について (町 長)</p>	<p>人口減少現象は、国内や地域の経済にも深刻な影響を及ぼしている。地域の経済や安心して暮らせる町づくりのためにも人口減少を食い止める対策が必要と考える。他の自治体では人口減少対策として、地元木材の活用、再生可能エネルギーの取り組みなどや地元の産業振興に結び付くことなどを条件に住民や移住者が住宅を建てる時に支援制度を設けているが、町の今後の対応について伺う。</p>
<p>4 パートナーシップ制度 について (町 長)</p>	<p>性的少数者のパートナー関係を自治体が認めるパートナーシップ制度を導入する市町村が391自治体に広がっている。近隣市町村では、旭川市と美瑛、東川、鷹栖、比布、当麻、愛別町で始まっている。町としても対応すべきと考えるが、町長はどのように受け止め今後どのように対応されるのか伺う。</p>
<p>5 町立病院について (町 長)</p>	<p>町立病院は令和7年6月から新たな体制の下で運営される。基本理念・基本方針では地域に信頼される病院づくりを職員と一体となり、安全で良質な医療・介護サービスの提供と運営に努めるとされている。医師や職員の確保と充実が必要と考えるが医師は今後とも旭川医大から派遣が確約されているのか。さらに、介護医療院は40床となり、入所者のケアの充実がこれからも必要となるが、現在介護職員は非正規雇用となっているが、正職員としての引き続きの雇用や採用をすべきと考えるが答弁を求める。</p>

<p><b>8</b> <b>9番 島田 政志</b> 1 町営住宅について (町 長)</p>	<p>町営住宅は、住宅困窮者にとってなくてはならないものだが、町長の考えを伺う。</p> <p>(1) 現在の戸数と入居状況 (2) 老朽化している住宅の修繕等の状況 (3) 町営住宅の費用対効果 (4) 今後の解体、新築の計画 (5) 地震やその他災害時の体制</p>
<p>2 旧教員住宅について (町 長)</p>	<p>旧教員住宅について、現在の入居の状況と今後の方向性について伺う。</p> <p>(1) 東中地区、市街地区、江幌地区の戸数と入居状況 (2) 朽ちていて壊れそうで危険な建物の対応 (3) 解体計画 (4) 今後の旧教員住宅のあり方</p>
<p><b>9</b> <b>2番 荒生 博一</b> 1 上富良野町「ゼロカーボンシティ」宣言について (町 長)</p>	<p>令和4年6月22日に齊藤町長は、上富良野町は、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言している。宣言以前は、地球温暖化防止実行計画に基づき、本町における環境問題の解決に向けた施策等の推進を図ってきており、宣言を機に地域の皆様と一層の連携を図りながら、国や北海道の目標達成の一助となるべく、また、国際社会の一員として、自然エネルギーの活用や省エネルギー対策など、環境に配慮した取り組みをこれまで以上に進め、持続可能なまちづくりを実現していく必要があるとのことであった。そこで、以下4点これまでの取り組みと、今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(1) ゼロカーボンシティ宣言後、1年9か月経過しているが、宣言後のこれまでの主な取り組みについて伺う。 (2) 宣言では、地域の皆様と連携を図りながら目標を達成ししていくとあるが、具体的に町民の皆様や地元企業などどのような働きかけを行っているのか伺う。 (3) 上富良野町は、この間どのような取り組みを行ってきたのか具体的に伺う。また、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするための更なる取り組みについて、どのような取り組みが必要と考えているのか伺う。 (4) 国のカーボンニュートラル行動計画では、2030年までに政府施設を100%LED化するはずが、3年前倒しになった。全国の自治体もほ</p>

	<p>ぼこの目標に倣っていると聞き及んでいる。2027年の蛍光管製造禁止に備え上富良野町においても迅速なLED化が必要と考えるが、公共施設のLED化の現状と、今後のどのような計画を現在持ち合わせているのか伺う。</p>
<p>2 防災対策について (町長)</p>	<p>2024年1月1日午後4時過ぎ、石川県の能登地方を震源とする地震が発生し、最大震度は7、東日本大震災以来となる大津波警報が発表された。震源に近いエリアでは津波による被害、そして建物の倒壊や火災が相次ぎ、2月5日現在、死者241名、災害関連死15人、安否不明11人となっている。いつどこで起きるか分からない災害に、私たちは常に備えることでしか命や暮らしを守ることはできない。上富良野町では毎年2月に融雪型火山泥流の発生を想定した十勝岳噴火総合防災訓練を実施しており、本年は、草分、栄町、中町、泉町、西富、本町、住吉、島津の各住民会が訓練に参加し、対象地区の指定避難所などを開設した。また、能登半島地震で冬季防災への意識が高まる中、上富良野町、中富良野町、南富良野町の3町の職員と陸上自衛隊上富良野駐屯地の隊員ら14人が、「冬季避難所実地検証」を2月8日午前10時～2月9日午前10時までの24時間南富良野町金山地区の体育館で寝泊まりし、冬の避難所の運営や生活する際の課題の検証を行っている。このような訓練や検証は非常に重要である。</p> <p>災害大国の日本で暮らす私たちは、もはや災害のリスクは常に身近にあることを意識し、どのような災害が自分や家族の身に降りかかる可能性があるかを調べ、リスクに備えることが重要である。そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 企業誘致の視点で、安全地帯と言われていた熊本県、そして、地震リスクは小さいなどとして企業誘致を進めてきた石川県が相次いで地震災害に見舞われている。今回の能登半島地震を受け、町民の生命と財産を守る立場の町長はどのような学びがあったか伺う。</p> <p>(2) 上富良野町はこれまでも、十勝岳噴火を主軸に防災訓練を行っている。そのため対象地域を限定した訓練が行われているが、今後は地震などに備え、全町民を対象にした防災訓練の実施が必要と考えるが町長の見解は。</p> <p>(3) 能登半島地震では、トイレ問題がクローズアップされており、東日本大震災や熊本地震でも同じだったが、被災地トイレ問題は繰り返し起こっている。そのうえでも、防災備蓄品の携帯トイレや仮設トイレの設置などの備えが重要と考える。上富良野町では今後どのような対策が必要と認識しているか伺う。</p>

<p>10 7番 茶谷 朋弘 1 上富良野町における受動喫煙対策について (町 長)</p>	<p>国の健康増進法の改正により 2019 年 7 月から学校、病院、行政機関などの敷地内では原則禁煙、2020 年 4 月からは様々な施設で原則屋内禁煙となった。</p> <p>これらの法の改正は、「望まない受動喫煙」を防ぐことを一番の目的として施行されてきた。上富良野町でもこれに伴い飲食店を含む様々な場所で「望まない受動喫煙」が少なくなったと考えられる。</p> <p>しかし、一方で様々な場所で喫煙所が撤廃されたことにより、敷地から一步出た路上での喫煙やタバコのポイ捨ても目立ち、場所によっては「望まない受動喫煙」になりうる可能性が増えたのではないのか。また、路上での喫煙は景観が悪いという町民の声も多く聞くようになった。</p> <p>そこで以下 3 点について町長に問う。</p> <p>(1) 望まない受動喫煙を防止するために町ではどのような対策をしているのか伺う。また、今後どのような対策を検討しているのか伺う。</p> <p>(2) 喫煙に対して規制をかける一方で、町内では喫煙者が多くいることも事実である。タバコを吸う人、吸わない人の両方が共存できるように今後喫煙所の設置は必要かと思われるが、そのような考えがあるか伺う。</p> <p>(3) 地方たばこ税を分煙環境の整備に活用するという考えもあるが、町長の見解を伺う。</p>
<p>2 町のホームページと SNS の運用について (町 長)</p>	<p>私は普段、移住者や観光客の方と関わる機会が多いが、最近町の移住定住ポータルサイト「KAMIFU LIFE」(カミフライフ)を見て移住を決めた。移住を検討している。特に今は移住を考えていないが町の魅力が伝わってきたというような声をよく耳にする。</p> <p>実際、アクセス数も伸びているということで非常に効果的なホームページができていると感じている。</p> <p>一方で、町のホームページを開くと、スマホ版と PC 版の 2 パターンあるが共に見づらく興味がわきづらい。さらに、慣れていないと探している情報までたどり着くのにとっても時間がかかってしまうと感じる。また、SNS を見ても上手に活用できているのかと疑問を感じる。</p> <p>そこで以下 4 点について町長に伺う。</p> <p>(1) SNS や町のホームページの運用はどのように行っているのか。また、SNS や町のホームページへのアクセス数はどのように推移しているのか伺う。</p> <p>(2) ホームページは町外の方への町のアピールに加え、町内の方への情報伝達の役割も担っていると考えられるが十分な効果が得られているか伺う。</p> <p>(3) ホームページのリニューアルは検討しているのか伺う。</p> <p>(4) 現在、町のホームページは町職員によって管理していると聞いているが、今後外部委託や地域おこし協力隊等でホームページに携わる人材の確保など検討しているのか伺う。</p>